

「平成15年度低コスト・低負荷型土壤汚染調査対策技術検討調査」
対象技術の採択について（お知らせ）

平成15年10月21日（火）
環境省水環境部土壤環境課
課長 太田 進（6650）
補佐 辻原 浩（6652）
担当 岡野 春樹（6656）

環境省では、現在実用段階にある低コスト・低負荷型の土壤汚染調査・対策技術を選定し、現場実証試験等により当該技術の総合的な評価等を行うとともに、その結果を公表することにより、これら技術に関する知識の普及と土壤汚染対策の推進を図ることとしています。

このため現場実証試験等の対象となる調査・対策技術を広く募集したところ、18件の応募があり、その中から7件を採択しました。

採択した技術については、今後現場実証試験等を行い、その結果等を踏まえ、総合的な評価等を行います。

1 本調査の目的

低コスト・低負荷型土壤汚染調査対策技術検討調査は、現在実用段階にある低コスト・低負荷型の土壤汚染調査・対策技術について、これまでの実績等をもとに事業者自らが行った自己評価結果等に基づき、本調査の対象となる技術を選定するとともに、選定した技術について本評価を行うために必要な事項に関して現場実証試験等を行わせ、その結果等も加味した当該技術の総合的な評価等を行います。以上の結果を公表することにより、これら技術に関する知識の普及と土壤汚染対策の推進を図ります。

2 本調査の対象技術の選考

平成15年8月6日から9月5日まで、本調査の対象技術の募集を行ったところ18件の応募がありました。

先般、学識経験者からなる「低コスト・低負荷型土壤汚染調査対策技術検討会」において、①技術の有効性、②技術の経済性、③周辺環境等への負荷度、④技術の実用性、⑤技術の簡便性、⑥総合的な評価の6つの観点から厳正な審査を行った結果、別紙のとおり7件の技術を本調査の対象技術として採択しました。

なお、本選考結果は応募技術の優劣を示すものではありませんので御留意願います。

3 今後の予定

採択した技術については、今後現場実証試験等を行い、その結果等を踏まえ、総合的な評価等を行います。

平成15年度低コスト・低負荷型土壤汚染調査対策技術検討調査採択技術の概要

代表機関名	技術名	技術の概要			
		調査/対策	対策技術の区分	適用物質種別	適用場所
鹿島建設株式会社	水平井を用いたバイオスパーキング工法	対策	原位置浄化	揮発性有機化合物	原位置
大成建設株式会社	既設構造物下部における揮発性有機塩素化合物による土壤・地下水汚染を対象とした原位置浄化技術	対策	原位置浄化	揮発性有機化合物	原位置
大成建設株式会社	浄化剤注入による原位置浄化技術	対策	原位置浄化	揮発性有機化合物	原位置
田中環境開発株式会社	ウォータージェットを利用した超高压水による地層洗浄工法	対策	原位置浄化	揮発性有機化合物	原位置
西松建設株式会社	AMP工法と酸化鉄を用いたVOC処理技術	対策	原位置浄化	揮発性有機化合物	原位置
三菱マテリアル資源開発株式会社	揮発性有機化合物による汚染土壤・地下水の酸化剤併用多孔間循環型浄化技術	対策	原位置浄化	揮発性有機化合物	原位置
三矢工業株式会社	グラウンドエア・システム	調査	—	揮発性有機化合物	—